

つくしだより 2018年8月号より

いつもは礼拝で聞いている聖書の言葉を、今日はこの場を借りて少しだけ紹介します。



父親は言った。「おできになるなら、わたしどもを憐れんでお助けください」
イエスは言われた。「『できれば』と言うか。信じるものには何でもできる」
その子の父親はすぐに叫んだ。

「信じます。信仰のないわたしをお助けください」

(マルコ9章22～24節)

日本では、家族で自分一人だけがクリスチャンというケースが珍しくありません。信仰のつながりで司式を頼まれたお葬式が始まり、讃美歌を歌う時、歌っていたのは牧師とその方お一人だけだった、という場合もよくあります。それでも私は、そのたった一人の信仰を通して、主の恵みは家族みなに注がれていると信じて司式の依頼を快諾することにしています。

そのように言うと、「先生、そんなことはありません。私、家ではほとんどキリスト教の話をしたことはありませんから」と謙遜されるクリスチャンの方もいます。「いいえ。キリスト教の話は必要ありません。あなたの日常の言葉、行為の一つひとつを通して、恵みは広がっていくのです」とお答えすることにしています。そう言うとさらに、「いいえ、先生、日常生活でも私は模範的なことなど何一つできていないのです」と卑下されますから、「いいえ、違います。私やあなたの行為のよい悪いではないのです。人並み以下のことしかできないこんな私をも、いや、こんな私だからこそ、神さまはとことん愛して、大切な独り子の命を捧げ尽くすまで愛して下さった。その豊かな恵みが、あなたからあふれ出て、隣人へと注がれていく。そのすべては、主がなされることなのです」。

そのように考えると、福音書でイエスが少しいぶかしく病気の子の父親に物言う理由が納得できます。「できれば…」。人間同士なら礼儀正しいものの言い方です。しかし、神さまに対してこれほどの無礼はない。神さまはあなたを救うためすでに動き出されているのですから。では、私たちは何と云えばよいのでしょうか。

「感謝します！」 神さまに言うべき言葉は、この一言で十分です。

(つくし保育園園長 つだかずお)

<だいで教会より> 平和を願う礼拝 夏のミニキャンプ

8月5日(日)午前10:30より、お庭とチャペルで

教会学校にも夏がやってきます。家族で一緒に礼拝を守り、夏の園庭で今年も水遊び。参加希望の方は事務所まで一声かけてください。